



《留学生の馬諾亜さんに、青海省の旧正月について寄稿していただきました。謝謝！》

青海の多民族が彩る旧正月文化 留学生 馬諾亜

中国青海省は、多民族が共生する地域であり、漢族、チベット族、土（トゥ）族、モンゴル族など、それぞれの民族が旧正月（春節）を最も重要な伝統行事として祝っている。青海の春節は、地域ごとに異なる文化的な特色を持ち、多様性に富んでいることが特徴だ。

旧暦の12月（腊月）に入ると、青海の各家庭では春節の準備が始まる。12月23日（小年）には灶神（台所の神）を祀り、家全体を掃除する「掃塵（ほこり払い）」が行われる。そして大晦日（除夕）には祖先を祀り、家族全員で団らんの食事を楽しむ。この日の朝には「包子」（中華まん）が供され、その丸い形が「円満」や「幸福」を象徴する。地域特産の青稞酒（チベット地方の大麦から作られる酒）で新年を祝うのも、青海ならではの風習だ。

正月7日以降、青海では「社火（しゃか）」と呼ばれる伝統的なパフォーマンスが盛大に行われる。社火は、村々がそれぞれの文化を披露する祝賀行事で、舞龍（竜舞）や舞獅（獅子舞）のほか、チベット族の舞踊や土族の「花儿（歌謡）」など、多様な演目が登場する。この社火は正月15日の元宵節（げんしょうせつ）に最高潮を迎え、地域全体が祝賀ムードに包まれる。

青海では各民族が独自の風習を持つ。土族は「輪子秋」という特殊なブランコでアクロバティックな演技を披露し、喜びを表現する。チベット族では、バター茶や手づかみ羊肉などの伝統料理が振る舞われ、寺院では酥油花（バター細工）や大仏開帳の儀式が行われる。モンゴル族は火神祭りを通じて新年を迎え、家族で羊肉料理を楽しみながら馬頭琴を演奏する。

青海の春節は、中国全体の春節文化の一部でありながら、多民族が共存する青海特有の特徴を持つ。祖先への敬意を示す祭祀や、にぎやかな社火の演目は、人々の団結と祝賀の象徴である。

このような伝統は次世代に受け継がれ、中国文化の多様性と包容力を世界に示す重要な役割を果たしている。

2月16日(日)新春の集いです！

留学生とともに春節を祝う「新春の集い」を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。来てね～

会場：富ヶ丘公民館

式次第：11:30 開会

11:45 会食（水餃子、雑煮等の軽食です）

13:00 かるた大会、ビンゴゲーム

14:00 閉会

会費：500円

ほかに、ビンゴゲームの景品に使用しますので、300円程度の未使用品のものを袋に入れてご持参ください。

※準備の都合上、参加申込は2/8までに、富谷日中LINEまたは携帯090-4633-6350で、安住へお願いします。



「仙台春節祭」開催される

1月11日、仙台国際センターにて新潟総領事館主催で開催されました。

甘肅省歌舞劇団が敦煌をテーマに伝統舞踊や音楽を披露し、美しく素晴らしい敦煌舞踊で観客を魅了していました。